

小 学 校

平成 2 7 年度

教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究仮説	2
IV	研究方法	2
1	基礎研究	
2	研究の進め方	
3	研究構想図	
V	研究内容	4
1	研究テーマの理解	
(1)	「思考力・判断力・表現力を発揮しながら表現する」とは	
(2)	「思考力・判断力・表現力を発揮しながら味わって聴く」とは	
2	思考力・判断力・表現力を発揮させる場の設定と働き掛け	5
(1)	「聴き取る・感じ取る」学習場面での「場の設定」と「働き掛け」	
(2)	「思いや意図をもち、深める」学習場面での「場の設定」と「働き掛け」	
(3)	「思いや意図を実現する」学習場面での「場の設定」と「働き掛け」	
(4)	「楽曲の構造を理解する」学習場面での「場の設定」と「働き掛け」	
(5)	「楽曲の特徴や演奏のよさを理解する」学習場面での「場の設定」と「働き掛け」	
3	実践事例	9
(1)	「聴き取る・感じ取る」学習場面の実践例	
第4学年	題材名 自分たちの「八木節」を歌おう	
	【A表現】(1)歌唱イ、【B鑑賞】(1)鑑賞ウ	
	〔共通事項〕ア(ア)音色、旋律	
(2)	「思いや意図をもち、深める」学習場面の実践例	15
第4学年	題材名 問いと答えの面白さを感じ取ろう	
	【A表現】(3)音楽づくりイ、【B鑑賞】(1)鑑賞イ・ウ	
	〔共通事項〕ア(ア)音色、(イ)問いと答え	
(3)	「思いや意図を実現する」学習場面の実践例	19
第2学年	題材名 おまつりの音楽をつくろう	
	【A表現】(3)音楽づくりア、イ	
	〔共通事項〕ア(ア)リズム、(イ)反復	
VI	研究の成果と課題	24

研究主題

思考力・判断力・表現力を発揮しながら
表現したり、味わって聴いたりする指導の工夫

I 研究主題設定の理由

学習指導要領（平成20年8月）の改訂において、「思考力・判断力・表現力等の育成」が示され、それに伴い音楽科では、改善の基本方針として「音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成」を重視すると示された。現在、小学校音楽科では、この趣旨を踏まえ、日々の授業実践が行われている。一方「小学校学習指導要領実施状況調査」（平成27年2月国立教育政策研究所教育課程研究センター）においては、「音楽表現に対する思いや意図を言葉で適切に表すこと、感じ取ったことと音楽的な特徴を結び付けて楽曲の特徴を言葉で適切に表すことなどに一部課題があると考えられる」など、音楽科における思考力・判断力・表現力に関して依然として課題があることが指摘されている。

教育研究員小学校音楽部会では、平成22年度より、児童が聴き取ったり感じ取ったりしたことを基に、試行錯誤し、思いや意図をもち表現する、つまり、音楽科における児童の思考力・判断力・表現力に関する研究がなされてきた。これらの研究で、音楽を形づくっている要素である〔共通事項〕を聴き取り、その働きから生まれるよさや面白さを感じ取り、思いや意図をもって表現することの重要性が明らかにされてきた。

今年度、教育研究員の授業分析をした結果、「楽曲を聴いて音楽を形づくっている要素は知覚したが、そのよさや特質までは感じ取らせられていない」「創意工夫する段階で、感じ取ったことをどのように表現に生かすか、思いや意図を明確にもたせていない」「表現活動の際に、教師主導になってしまい、児童が思いや意図を表現に結び付ける指導になっていない」「楽曲の特徴や演奏のよさを感じ取り、味わって聴くまで深められない」など、主に児童の思考力・判断力・表現力に働きかける指導法についての課題が明らかになった。

そこで、本研究では目指す児童の姿を、「自ら感性や創造性を発揮しながら、聴き取り・感じ取ったことを基に、思いや意図を実現する児童」「感性や創造性を働かせて、音楽を能動的に聴く児童」と考えた。そのためには、「聴き取る・感じ取る」「思いや意図をもち、深める」「思いや意図を実現する」「楽曲の構造を理解して聴く」「楽曲の特徴や演奏のよさを理解する」の五つの学習場面において、児童が思考力・判断力・表現力を常に発揮できる場の設定と教師の働き掛けが大切であると考えた。そこで、研究主題を「思考力・判断力・表現力を発揮しながら表現したり、味わって聴いたりする指導の工夫」と設定した。

II 研究の視点

研究主題に迫るため、下記の二つの視点から、「聴き取る・感じ取る」（表現・鑑賞）「思いや意図をもち、深める」（表現）「思いや意図を実現する」（表現）「楽曲の構造を理解して聴く」（鑑賞）「楽曲の特徴や演奏のよさを理解する」（鑑賞）の学習場面における児童の思考に応じた、効果的な指導法を目指し、検証授業等による実践研究を通して明らかにする。

- (1) 思考力・判断力・表現力を発揮する「場の設定」
- (2) 思考力・判断力・表現力を発揮する「働き掛け」

Ⅲ 研究仮説

「聴き取る・感じ取る」「思いや意図をもち、深める」「思いや意図を実現する」「楽曲の構造を理解して聴く」「楽曲の特徴や演奏のよさを理解する」の五つの学習場面において、児童の思考に応じた「場の設定」と「働き掛け」を工夫することで、思考力・判断力・表現力を発揮しながら表現したり、味わって聴いたりすることができるであろう。

Ⅳ 研究方法

1 基礎研究

次の文献等を基に、音楽科における思考力・判断力・表現力の捉え方、思考力・判断力を発揮しながら主体的に学習に取り組む基本的な考え方について把握した。

- ・「小学校学習指導要領解説 音楽編」文部科学省
- ・「小学校版 言語活動の充実に関する指導事例集」文部科学省
- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料〔小学校音楽〕」
国立教育政策研究所教育課程研究センター
- ・「初等教育資料『思考力・判断力・表現力が育まれた子供の姿と指導のポイント』」
(平成26年6月号 教科調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課 津田正之)
- ・「初等教育資料『音楽科における主体的に学習に取り組む態度の育成』」
(平成27年4月号 教科調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課 津田正之)
- ・平成24・25・26年度 教育研究員研究報告書小学校「音楽」

2 研究の進め方

6月及び7月の研究授業、並びに自己や各地区の指導の状況から課題を挙げ、それに対する基礎研究を行った。これらの課題解決に向け御岳山での宿泊研究会において、児童が思考力・判断力・表現力を発揮しながら表現したり、味わって音楽を聴いたりするための指導の工夫について協議した。研究の視点、及びそのための授業改善のポイントを見いだした。以後3回の検証授業から児童の思考力・判断力・表現力に促す指導であるか検証を進めた。

3 研究構想図

教育研究員共通研究テーマ「思考力・判断力・表現力等をもつめる授業改善」

音楽科における今日的な課題

思考力・判断力・表現力等の育成について、「歌唱及び器楽において、音楽表現に対する思いや意図を言葉で適切に表すこと」「鑑賞において、感じ取ったことと音楽的な特徴を結び付けて楽曲の特徴を言葉で適切に表すこと」に課題があると考えられる。

小学校学習指導要領実施状況調査 教科別分析と改善点（音楽）より

教師の課題

- ① 題材設定における児童の実態の把握
- ② 題材の目標に合った教材選択
- ③ 思考・判断・表現を重視した指導計画の作成
- ④ 児童が聴き取ったこと(知覚)・感じ取ったこと(感受)を思いや意図に結び付ける働き掛け

児童の課題

- ① 思いや意図を言葉や音楽で表現すること
- ② 感じ取ったことと音楽的な特徴を結び付けて楽曲の特徴を言葉で適切に表すこと
- ③ 思いや意図を音楽表現に生かすこと

研究主題

「思考力・判断力・表現力を発揮しながら表現したり、味わって聴いたりする指導の工夫」

研究の仮説

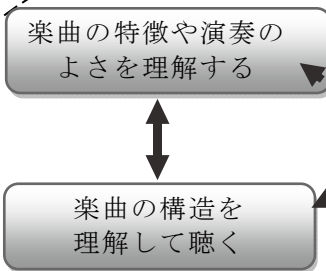
「聴き取る・感じ取る」「思いや意図をもち、深める」「思いや意図を実現する」「楽曲の構造を理解して聴く」「楽曲の特徴や演奏のよさを理解する」の五つの学習場面において、児童の思考に応じた「場の設定」と「働きかけ」を工夫することで、思考力・判断力・表現力を発揮しながら表現したり、味わって聴いたりすることができるであろう。

実践研究

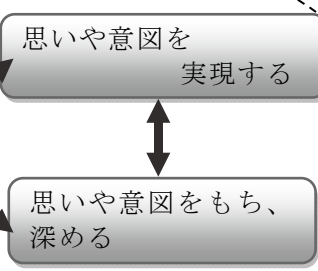
目指す児童像

- 自ら感性や創造性を発揮しながら、聴き取り感じ取ったことを基に、思いや意図を実現する児童
- 感性や創造性を働かせて、音楽を能動的に聴く児童

鑑賞領域



表現領域



聴き取る・感じ取る

- 児童の思考力・判断力・表現力を発揮させる場の設定
- 児童の思考力・判断力・表現力を発揮させる働き掛けの工夫

※表現領域と鑑賞領域における学習場面において、児童の思考に応じ、「場の設定」「働き掛け」の視点から指導法を工夫し、検証授業を通して仮説の有効性を明らかにする。

基礎研究

文献研究を基に、思考力・判断力・表現力、聴き取ったこと（知覚）・感じ取ったこと（感受）と思いや意図の関係性について整理した。

V 研究内容

1 研究テーマの理解

本研究における用語を次のように捉えた。

(1) 「思考力・判断力・表現力を発揮しながら表現する」とは

児童が、自分の目指す音楽に向ってよりよい表現を追求しながら、題材全体を通して常に思考・判断・表現し、主体的に学び続ける状態を指す。

小学校学習指導要領音楽科の改善の基本方針において「(前略)表現と鑑賞の支えとなる指導内容を〔共通事項〕として示し、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を一層重視する」と示されている。「知覚(聴き取る)」「感受(感じ取る)」とは、児童が今までの経験を生かして思考・判断・表現を繰り返しながら音楽を形づくっている要素の働きを、感性を基に自らの言葉で表すことである。この「聴き取る・感じ取る」ことが、目指す音楽に向けて主体的に学ぶための思考・判断する力を支えるものである。

この「聴き取る・感じ取る」を経て、その要素の働きのよさや面白さを実感し、児童は「あのよう表現したい」などと願いをもつ。そしてどのように要素を働かせれば、自分の願いに合う表現ができるか考える(試行錯誤)。この試行錯誤した結果が、やがて「この要素をこのように工夫して(働かせて)演奏してみたい」という、思いや意図という形で言葉等で表現される。どのように表現するか見通し、自ら必要な技能を身に付け、より要素の働きを実感しながら音楽表現を進めることができるようになる。

例えば、楽曲の特徴を生かして歌い方を工夫する題材で、民謡を聴き、「勇ましい感じで元気になる」「広い空に向かって歌ってようで、気持ちがいい」などと感じる。なぜそのように感じたか問い掛けることで、民謡の歌声が自分たちの歌い方と響きや音色が違うこと、細かく音を震わせたり揺らしたりしていることなど音楽を形づくっている要素の働きを思考しながら聴き取り、感じ取ったことと結びつけて音楽を捉えられるようになる。この「聴き取る・感じ取る」の過程を十分に深めることが、「あのよう歌いたい」「私はこう歌いたい」という願いとなる。児童は自ら様々な歌い方を試行錯誤したり、他者と考えを比較したり共有したりしながら、次第に思いや意図を鮮明にもつようになる。この思いや意図を実現するため、児童は技能の必要性に気付き、民謡の歌い方(技能)を身に付ける。このように聴き取り、感じ取ったことを支えにしながら、常に思考・判断・表現して音楽表現に対する自分の考えなどを音や言葉などで表し、自らの意志で思いや意図を実現していく。このことが、思考力・判断力・表現力を発揮しながら音楽表現することであると捉えた。

(2) 「思考力・判断力・表現力を発揮しながら味わって聴く」とは

児童が、常に楽曲に向き合い、思考・判断しながら主体的に音楽を聴くことである。鑑賞の学習においても、主体的に音楽を形づくっている要素を聴き取り、その働きのよさや面白さを自らの感性を生かして感じ取る。その上で楽曲の固有の気分や雰囲気、味わい、表情を醸し出す「曲想」と、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みによって

作られる「楽曲の構造」の関わりについて思考・判断しながら理解して聴き取る。この関わりを基に、感じ取ったことや想像したことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解する。このように根拠を明らかにしながら、楽曲のよさや面白さを自分なりに捉え、互いに伝え合い、曲想と楽曲の構造との関わりが音楽全体の中でどのように働いているか理解して聴くことが、思考力・判断力・表現力を発揮していると考えた。

2 思考力・判断力・表現力を発揮させる「場の設定」と「働き掛け」の工夫

児童が思考力・判断力・表現力を発揮させながら、主体的に表現したり、鑑賞したりするには、「聴き取る・感じ取る」「思いや意図をもち、深める」「思いや意図を実現する」「楽曲の構造を理解して聴く」「楽曲の特徴や演奏のよさを理解する」の五つの学習場面を、児童が十分に思考力・判断力・表現力できる場として設定することが授業改善のポイントであると考えた。そしてその「場の設定」を児童が実現するために、教師が何を「働き掛け」るかを工夫し整理した（表1参照）。

(1) 「聴き取る・感じ取る」学習場面での「場の設定」と「働きかけ」

聴き取る・感じ取る学習を確かなものにするために、第1に題材で学習の中心となる〔共通事項〕を明確にし、児童全員がその〔共通事項〕の働きに気付く場を設定した。

この場を実現するための働き掛けとして、音楽を形づくっている要素を確実につかませるための楽曲との出会わせ方を工夫した。

具体的な指導の工夫として、学習の中心となる〔共通事項〕の働きが分かりやすい教材や楽曲を取り上げたり、様々な音源からどのようなものを選択したりするか（要素の働きがより感じ取りやすいもの）などがあげられる。また、楽曲の特徴やよさや面白さを感じ取らせるために、要素の働きが対照的な楽曲や演奏を比較聴取させる働き掛けや、問いと答えの働きをつかませるために、音楽に合わせて体を動かしながら聴くようにするなどの働き掛けをしたりすることが考えられる。

第2に、音楽を形づくっている要素の働きを実際に確かめ、よさや面白さを実感する場を設定した。

実践例第4学年「自分たちの「八木節」を歌おう」の実践では、第1時「聴き取る・感じ取る」学習において、「八木節」の歌声や旋律の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取る場を設定した。さらに、民謡の発声や歌い方などを比較聴取したり、実際に試したりして、それらのもつよさや面白さを実感できるように働きかけた。

しかし、教師が児童の聴き取ったことと感じ取ったことを、結び付ける働き掛けが不十分だったため、児童がよさや面白さの実感を伴って深く理解することができなかった。そのため、聴き取り、感じ取ったことを基に、自ら表現を工夫する段階にうまく進めなかった。そこで、民謡の歌い方を試し、気付いたことや感じたことを意見交流させ、整理して板書した。それにより児童は、民謡の特徴や面白さを実感し、深めることができた（実践事例（1）参照）。

「聴き取る・感じ取る」学習では、「どうしてそう感じたのか」「音楽のどの部分から、そのように感じたのか」等、児童の思考を更に深め、広げ、発展させるような働き掛けの発問や、児童が自ら考えたことを振り返る板書の方法やワークシートの工夫など、聴き取ったことと感じ取ったことを結び付けさせる働き掛けが必要である。

(2) 「思いや意図をもち、深める」学習場面での「場の設定」と「働き掛け」

「聴き取る・感じ取る」活動により、音楽を形づくっている要素の働きによるよさや面白さを実感できれば、児童は「この音楽は面白い」「あのよう表現したい」と音楽表現に願いをもって学習に取り組むようになる。そして、目指す音楽に向かって、音楽表現を工夫し、このように表現したいと明確な思いや意図をもつ。このように音楽表現について思考し、要素の働きを工夫する場を設定した。この場を充実させることで、児童は思いや意図をもち、その思いや意図を深めることで自ら学習を進めることにつながると考えた。

要素の働きを工夫する場を実現するために、聴き取ったこと、感じ取ったことを想起させ、見通しをもって学習に取り組ませる働きかけが必要である。例えば、聴き取り・感じ取った要素の働きについて板書やワークシートを振り返り、それを基に思考・判断したり、自分の思いや意図をもたせたりするために、一人一人が十分に試行錯誤する時間を設定する。また、ペア学習、グループ学習など学習形態を工夫することで、児童は友達と関わり合いながら試行錯誤し、思いや意図を修正したり、より確信したりして、見通しをもって学習に取り組んでいく。

試行錯誤する中で、自分のもっている技能の隔たりに気付いた児童は、技能を身に付けたいと願うようになる。この願いと思いや意図との関係性を見失うことなく次の活動に発展できるように、思いや意図を実現するために必要な技能に気付かせる。そのためには、繰り返し試し表現させるように働き掛ける。

そして、児童が思いや意図をもち、深めていくために、教師は思いや意図の実現に必要な技能を指導する働き掛けをする。児童が求める技能を、教師は、指導のポイントを明確にし働き掛ける。この技能の指導は、歌や楽器の演奏技術だけではなく、正しい楽器の扱い方や、音符、休符、記号、音楽にかかわる用語についての知識なども含まれる。計画的かつ継続的な積み重ねによる指導が重要である。

(3) 「思いや意図を実現する」学習場面での「場の設定」と「働き掛け」

要素の働きを工夫し、思いや意図をもち深めながら、必要な技能を身に付け、思いや意図が音楽表現で実現できたか確かめさせる場を設定することが必要である。

この場を実現するために、要素の働きのよさを振り返らせる働き掛けを大切にする。「聴き取り・感じ取り」「思いや意図をもち深める」過程で取り上げた要素の働きを生かして表現したり、友達の演奏を聴くような教師の働きなどにより、要素の働きに着目しながら、互いに表現を聴き合ったり、感想を伝え合ったりさせる。そして、これまでの学び方や思いや意図のもち方についても振り返るようにさせたい。

(4) 「楽曲の構造を理解して聴く」学習場面での「場の設定」と「働き掛け」

「感じ取ったこと」と、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みから生まれる「楽曲の構造」とを関連付ける場を設定する。鑑賞の指導に当たっては、「曲想(やその変化)」を感じ取り、「楽曲の構造」の理解につながるように〔共通事項〕を扱うことが大切である。楽曲全体や各部分がどのように形づくられているのか、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みに着目して気付いたり、自らが感じ取ったこととの関連について理解したりする場が必要となる。

この場を実現するために、楽曲全体の中で、楽曲の構造がどのような働きをし、曲想(やその変化)に関わっているか着目させる働き掛けが必要である。音楽を聴いて、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さの感じ取ったことを、児童の言葉で十分に表現させる。また互いの発言を実際に音楽を聴いて確かめさせたりする働き掛けを大切にする。

例えば、音楽に合わせて体を動かしたり、図や絵・線などで表したりして音楽の特徴を可視化する活動などが考えられる。それらの活動をしているとき、児童の多くは直感的に表現している。その際、児童の思考を促すために「なぜ、そのように動いているのか」「なぜ、そのように表したのか」と問い掛け、その理由を思考・判断させ意識的に音楽の中に求めさせる発問の工夫が考えられる。

(5) 「楽曲の特徴や演奏のよさを理解する」学習場面での「場の設定」と「働き掛け」

それぞれが感じたよさや面白さを伝え合う場を設定する。前述(4)の「楽曲の特徴や演奏のよさを理解」した上で、「音楽を形づくっている要素の聴き取り(知覚)」「それらの働きが生み出すよさや面白さの感じ取り(感受)」「楽曲全体がどのように形づくられているか(楽曲の構造)」「楽曲の雰囲気や表情がどのように移り変わっているのか(曲想やその変化)」、これらの関わりについて、一人一人が十分に思考力を働かせて聴いて感じ取り、言葉で表して伝え合う場である。

このために、思考力・判断力を働かせて根拠を明らかにし、よさや面白さを説明させる働き掛けが必要である。「音楽を形づくっている要素の聴き取る(知覚)」という共通の内容は全員で共有しつつ、「それらの働きが生み出すよさや面白さの感じ取り(感受)」学習においては、答えは一つではないことを基本に、楽曲の紹介文を作成したり、ペアやグループで楽曲のよさや面白さについて意見を交換する。そのなかで友達との感じ方の違いに気付いたり、それによって自分の感じ方を広げたり、共有したりしながら思考・判断・表現を繰り返し、一層深く感じ取り言葉で表現できるようにする。

その際、児童から出た発言を教師が意味付けたり価値付けたりすることや、言葉で表したことを実際に音楽を聴いて確かめ往還させる働き掛けを大切にしたい。

「表1 思考力・判断力・表現力を発揮させる場の設定と働き掛け」

学習場面	「場の設定」	○ 場の設定を実現するための「働き掛け」 ・具体的な働き掛けの事例
聴き取る・ 感じ取る	音楽を形づくっている 要素に気付く場	○音楽を形づくっている要素を確実につかませるための 楽曲との出合わせ方の工夫 ・学習でねらう〔共通事項〕にあった教材、楽曲、音源選 択 ・比較聴取 ・体験的な活動 ・音楽の特徴の可視化 ・発問の工夫
	音楽を形づくっている 要素の働きを実際に 確かめ、よさや面白さを 実感する場	○聴き取ったことと感じ取ったことを結び付けさせる ・発問の工夫 ・ワークシートの工夫 ・板書の工夫 ・体験的な活動
思いや意図 をもち、 深める	要素の働きを 工夫する場	○聴き取ったこと、感じ取ったことを想起させ、見通しを もって学習に取り組ませる。 ・聴き取る・感じ取る場での意見の活用 ・十分に個々が試行錯誤する時間の確保 ・ペア、グループなどの学習形態の工夫 ・発問の工夫 ○思いや意図の実現に必要な技能を気付かせる ・演奏を試し、技能の必要性を実感させる ・必要な技能の指導 ・楽曲の背景、作曲者の思いの理解 ・発問の工夫
思いや意図 を実現する	思いや意図を音楽表現で 実現できたか確かめさせ る場	○要素の働きのよさを振り返らせる ・身に付けた技能を使い、要素の働きを生かして 演奏させる ・要素の働きに着目して友達の演奏を聴く ・発問の工夫
楽曲の構造 を理解する	「感じ取ったこと」と、音 楽を特徴付けている要素 や音楽の仕組みから生ま れる「楽曲の構造」とを 関連付ける場	○楽曲全体の中で、楽曲の構造がどのような働きをし、 曲想（やその変化）に関わっているか着目させる ・体を動かして聴く ・音楽の特徴の可視化 ・発問の工夫
楽曲の特徴 や演奏の よさを 理解する	それぞれが感じたよさや 面白さを伝え合う場	○根拠を明らかにして、よさや面白さを説明させる ・意見の交流 ・紹介文を書く ・音楽を聴き振り返る ・発問の工夫

3 実践事例

(1) 「聴き取る・感じ取る」学習における「場の設定」と「働き掛け」の実践例

① 題材名 自分たちの「八木節」を工夫して歌おう（第4学年・4時間扱い）

② 題材の目標

- ・「八木節」の歌い方やふしの特徴を感じ取って、曲想に合った表現を工夫し思いや意図をもって演奏する。
- ・民謡の歌い方やふしの特徴を感じ取って、そのよさや面白さを味わって聴く。

③ 学習指導要領との関連

【A 表現】(1)歌唱イ「歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと」

【B 鑑賞】(1)鑑賞ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表わすなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと」

〔共通事項〕 ア(ア)音色、旋律

④ 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①民謡のもつ独特な発声やふし回しなどのよさや面白さに興味・関心をもち、鑑賞の学習に進んで取り組もうとしている。	①「八木節」の歌声やふしの特徴を聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら、その曲想に合った表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	①発声の仕方や「こぶし」「ゆり」などの歌い方を工夫して「八木節」にふさわしい表現で歌っている。	①民謡のもつ独特な発声やふし回し、旋律の流れを聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、民謡の歌声のよさに気付き味わって聴いている。

⑤ 指導観

ア 題材観

本題材では「民謡を歌う」という活動を通して、より一層、日本の音楽のよさ面白さに気付き、民謡に親しむ心情を育てる。今回は民謡の歌い方やふしの特徴を聴き取ったり感じ取ったりしたことを、自らの声で表現するために様々な工夫をすることにより、思いや意図をもって取り組む表現活動につなげたい。

〔共通事項〕は、(1)ア(ア)音色、旋律に重点を置き、児童の思いや意図を実現することができるよう、それらの働き掛け方に気付かせながら指導していく。

イ 教材観

(ア)「八木節」群馬県・栃木県民謡

明るく軽快な調子の民謡であり、声を揺らしながら音程を上げる“ゆりあげ”から始まる旋律や観客に呼び掛けるようなふし回しは、楽譜に書き表すことができないう自由な表現をすることができ、児童がそれぞれの思いや意図に合わせて工夫することができる教材であると考えた。

(イ)「さくらさくら」日本古謡、長谷部匡俊編曲

民謡の歌い方やふしの特徴を聴き取り感じ取らせるために、比較聴取や歌い比べる活動が有効であると考えた。既習曲であるこの曲は児童になじみがあり、「八木節」と比較聴取した時に、同じ“日本の音楽”としての相違点を捉えやすいのでは

ないかと考えた。

(ウ)民謡の歌唱法、いろいろな技法の範唱 財団法人日本民謡協会「民謡指導マニュアル」より
「八木節」の聴き取りだけでは捉えることが難しい「こぶし」「ゆり」などの歌唱法を一つ一つを取り上げているため、児童が聴き取り、模倣し、工夫の参考にするために有効な教材である。

⑥本題材における思考力・判断力・表現力を発揮させる「場の設定」と「働き掛け」

学習場面	○場の設定	○場の設定を実現するための「働き掛け」
聴き取る・感じ取る	○「八木節」の歌声（音色）や旋律の特徴に気付く。	○「さくらさくら」と比較聴取させたり、「こぶし」「ゆり」などを一切入れない「八木節」と比較聴取させたりする。
	○民謡の発声や「こぶし」「ゆり」などの特徴的な歌い方について実際に確かめ、よさや面白さを実感する。	○頭声的な発声で歌わせたり、「こぶし」「ゆり」などを一切入れずに歌わせたりする。 ○民謡の歌い方を取り入れたことで気付いたことや感じたことを意見交換させる。
思いや意図をもち深める	○民謡の発声や特徴的な歌い方を生かして試行錯誤しながら、より民謡らしく歌えるような“自分たちの「八木節」”を考える。	○ワークシートの記録や板書を活用したり、鑑賞曲を聴かせたりして第1時の学習内容を想起させる。 ○個人の活動からグループ学習へ学習形態を広げ、各自の考えをもった上で友達と意見を交流し合えるようにする。 ○思いや意図の実現に必要な技能を指導する
思いや意図を実現する	○発声の仕方や「こぶし」「ゆり」を使ったふし回しなどを工夫して、民謡のよさや面白さを楽しむことができる「八木節」になったか確かめる。	○工夫した点を伝え合いながら発表し、互いによさを認め合うことができるように、意見を交流させる。
楽曲の特徴や演奏のよさを理解する	○感じ取ったことと、民謡の発声の仕方や「こぶし」「ゆり」などの歌い方が生み出す楽曲のよさや面白さを関連付ける。	○独特の雰囲気を出すために、発声の仕方やふし回しがどのように関わっているのか着目させるため、通常の歌唱教材と比較聴取させる。

⑦「聴き取る・感じ取る」場面における具体的な働き掛け（発問・言葉掛け・板書等）

(1)児童の思考を促すための発問の工夫

児童が何について聴き取り、感じ取り、思考を働かせればよいのかを明確にし、児童が自分の言葉で説明できるような発問の工夫を行った。

ア 「さくらさくら」と「八木節」の比較聴取

<p>T: 「さくらさくら」を聴いたり歌ったりすると、<u>どのような情景が浮かんだり、どのような気分になったり</u>しますか。</p> <p>C: <u>のんびり</u>として日差しが温かい感じがします。</p> <p>C: <u>桜が満開で、ひらひらと花びらが舞っている</u>ような感じがします。</p> <p>C: <u>山の上から景色を見渡している</u>ような感じがします。</p> <p>T: では「八木節」はどうでしょうか？</p> <p>C: <u>勇ましく、元気が出る</u>感じがします。</p> <p>C: <u>遠くに向かって歌っている</u>感じがします。<u>お祭りみたい。踊りたくなる</u>感じ。</p>

- T: なぜ、そのように感じたのでしょうか。「さくらさくら」と「八木節」を比べて考えましょう。
- C: 「さくらさくら」は、とても柔らかい声で歌っていたから、温かく感じました。
- C: 「八木節」が元気な感じだったのは、声がとても強い感じでした。たくさん響いていたからです。
- C: 「さくらさくら」は、ゆっくりした速さで、一つ一つの音がなめらかに繋がっていたからのんびりした感じに聴こえました。
- C: 音が上にあがってから、タンタタンと下におりたから、花びらが舞っている感じがしました。(♪ラシドシ ラ～シラファ～の部分)
- C: ♪見渡すかぎり～と歌っているので、高い所でいい気分歌っていると思うから。
- C: 「八木節」は、太鼓が「カッコカッコ」となっていて、とてもノリのいいリズムだったから踊りたくなりました。太鼓はお祭りで聴いたことがあるからです。
- T: 何か、「旋律の特徴」について気が付いたことはありましたか？
- C: 「さくらさくら」は、とにかくとってもなめらかです。
- C: 体を左右にゆっくり動かしたくなるように、音がつながっていました。
- C: 音が順番につながっていました。お箏の弦の順番を思い出しました。
- C: 「八木節」は、一つの言葉や音をすごく伸ばしていました。
- C: 音が高くなったり低くなったり、変化が大きかった。
- C: 音が震えたり揺れたりしていた。
- T: 歌い方について、何か気が付いたことはありますか。
- C: 「さくらさくら」は、おでこの窓を開けて、きれいに響かせて歌っている。
- C: やさしい声、やわらかい声で歌っている。
- C: 「八木節」は、お腹から声を出している。気持ちを思い切り出して歌っていて、歌をみんなに伝えたい感じがします。
- C: 声を震わせていた(特に音を長く伸ばしているとき)。時々音が外れている感じがしました。
- C: のどや首のあたりに力が入っているような気がする。

イ 頭声的な発声で「こぶし」「ゆり」などを一切入れない「八木節」との比較聴取

- T: 2つの歌い方を聴き比べて、気付いたり感じたりしたことはありますか
- C: 普通の歌い方の方が、音の高さが分かりやすい。
- C: 音を一つ一つ丁寧に歌っている感じがします。
- C: 「こぶし」とかが入っている方は、音が決まっていないみたい。
- C: 音が外れているときもあるみたい。
- C: 音が震えたり、♪アアア～と上下に揺れたりしている。
- C: 普通の歌い方だと、裏面に歌っている感じがします。
- T: 歌に合わせて手を動かしたりして、気付いたことなどはありますか？
- C: 「こぶし」とか「ゆり」が入っている歌に合わせて手を動かしていたら、ずっとブルブルさせていた。
- C: 手を付けていたら、音が上がっていくときに勢いを感じました。
- C: 音を伸ばしているときに、特にたくさん揺れていた。
- C: 普通の歌い方だと、「八木節」の歌の感じに合わないような気がします。
- C: 逆に、民謡の歌い方だとぴったりくる。「こぶし」の感じがすごく合っている感じがします。

(2)聴き取ったことを感じ取ったことを結び付けるための言葉かけや板書の工夫

児童の発言を情景や気分(感じ取ったこと)、その理由(気付いたこと)、ふしの特徴(感じ取ったこと)、歌い方について(気付いたこと)に分けて板書し、それぞれを音楽を特徴付けている要素などと結び付けながら児童に言葉を返すような工夫を行った。

【板書例】

	思い浮かぶ景色 ・曲の気分	なぜそう思ったの？	旋律のとくちょう	歌い方
八木節	<ul style="list-style-type: none"> 勇ましい 元気が出る おまつり 遠くに向かって歌っている感じ 	<ul style="list-style-type: none"> 太鼓“カッコカッコ” ノリのいいリズム 声がとても強い とてもひびいている 	<ul style="list-style-type: none"> 一つの言葉や音をすごく伸ばしていた 音が高くなったり低くなったり、変化が大きい 音がふるえたりゆれたりする 	<ul style="list-style-type: none"> お腹から声を出している 気持ちを思い切り出している 声をふるわせている 時々音はずれている のどや首のあたりに力が入っている 音を伸ばすときに特にたくさんゆらしていた
さくらさくら	<ul style="list-style-type: none"> のんびり やわらかい日差し さくら満開 花びらひらひら 山の上から見下ろす感じ 	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくり歌っている 音がなめらか 音が上に上がってからタンタタタンと降りる (♪ラ～シ～ド～シ～ラ～シラファ) 	<ul style="list-style-type: none"> なめらか 体が左右にゆっくり揺れる 音がなめらか 音が順番につながっている お箏の弦の順番を思い出した 音の高さが分かりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> おでこの窓を開ける きれいにひびかせている やさしい声、やわらかい声

T: 声を震わせたり揺らしたりしていることに気付いたようですが、最初に感じた曲の気分に合わせていましたか？
 C: 「こぶし」などを使うと、気分が入ったり勢いがつくので、元気のある「八木節」にはあった方がいいと思う。
 C: 「こぶし」なしで歌う、盛り上がらないし物足りない感じ→八木節」にはこのようなふし回しが合うのですね。
 T: 声を出すときに使う身体場所にも気付いたようですが、いつもの歌い方ではだめですか？
 C: だめじゃないけど「八木節」には合わない。遠くに向かって、たくさんの人に聴いてもらうにはパワーが必要。
 C: 太鼓にも負けない通る声にしないと歌が伝わらないから→歌い方や声の感じ(音色)を工夫しているのですね。

⑧題材の指導計画 (全4時間扱い)

次	時	学習場面	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	具体的評価規準 (評価方法)
第1次	◆「八木節」の歌い方や旋律の特徴を感じ取る。			
	1	聴き取る・感じ取る	<ul style="list-style-type: none"> ○「八木節」を聴いて、歌声の特徴や旋律の動きを感じ取る。 ・「さくらさくら」を聴いたり歌ったりして、感じ取った情景や気分について全体で意見を交流する。 ・「八木節」を聴き、「さくらさくら」と比較しながら、歌声や歌い方についてペア → 全体で意見を交流する。 ・「八木節」の旋律の動きに着目し、その動きを感じ取りながら聴いたり歌ったりする。 ・「こぶし」「ゆり」などを一切入れない「八木節」と比較聴取し、その違いから、旋律の特徴について気付いたことについて意見を交流する。 ○民謡の発声や歌い方などを試して、それらのもつよさや面白さを実感する。 ・頭声的な発声と民謡の発声「八木節」を歌ったり聴き合ったりする。全体 → グループで活動する。 ・歌って試し、身体で感じたことや、歌っていて気持ちよかったところなどについて意見を交流する。 ・「八木節」の出だし部分をつかっ、より「民謡らしく」なるように全体で試したり聴き合ったりする。 	<p>民謡のもつ独特な発声やふし回しなどのよさや面白さに興味・関心をもち、鑑賞の学習に進んで取り組もうとしている。【関-①鑑賞】(発言内容・行動観察)</p>
第2次	◆「八木節」の旋律の特徴に合った歌い方を工夫し、思いや意図をもって歌う。			
	2	聴き取る・感じ取る 思いや意図をもち、深める	<ul style="list-style-type: none"> ○「八木節」のふしの特徴を生かし、歌い方を工夫する。 ・どのようなふしの特徴や歌い方があったのか、全体で振り返る。 ・第1時で試した「八木節」の出だし部分を復習する。 ・工夫する範囲を絞り、各自で譜面に「このようにしたらより民謡らしくなるだろう」と思うことを記入する。 ・グループで意見を持ち寄り、どのように歌ったらよいか歌ったり聴いたりしながら工夫する。 ・いろいろな歌い方を試しながら、迷った時は、もう一度CDを聴いてみる。 ・①工夫した部分 ②どのような工夫をしたのかについて伝えてから途中経過を発表し合い、意見交流をする。 	<p>「八木節」の歌声やふしの特徴を聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら、その曲想に合った表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。【創-①歌唱】(ワークシート・発言内容)</p>

3	聴き取る・感じ取る 思いや意図を実現する	<p>○自分たちが工夫した「八木節」を発表し、クラス全体で民謡を歌うことを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より民謡らしく歌うにはどのようなことを工夫すればよいかについてグループでいろいろ歌い方を試す。 ・グループで工夫した「八木節」を発表する。 ・発声やふし回しなどの歌い方に着目して発表を聴き、どのような工夫をしていたか気付いたこと、良かったことなど意見を交流する。 ・各自ワークシートで次の項目についてまとめる。 <p>①工夫する前と後で、みんなの「八木節」はどのように変わりましたか。</p> <p>②「より民謡らしくなる」ように、どのような方法を使って工夫しましたか。</p> <p>③自分の思いどおりに表現できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「八木節」を歌って、面白かったこと、気付いたことなどについての感想を発表する。 	<p>発声の仕方や「こぶし」、「ゆり」などの歌い方を工夫して「八木節」にふさわしい表現で歌っている。【技－①歌唱】(表現聴取・発言内容・ワークシート)</p>
		◆民謡のよさや面白さを味わって聴く。	
4	楽曲の特徴や演奏のよさを理解する	<p>○今までの学習を生かし、民謡の発声や歌い方などのよさや面白さを味わいながら「八木節」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1時に聴き取り感じ取ったことと、新たに聴き取り感じ取ったことを比較し、意見を交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・家族に「八木節」の面白さを紹介する、という設定で、自分が歌ったり聴いたりして感じ取った「民謡」のよさや面白さについて書く。 ・書いた紹介文を、友達と交換して読み合う。 ・友達の紹介文の良いところや自分の意見と違って面白かったことを発表する。 	<p>民謡のもつ独特な発声やふし回し、旋律の流れを聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、民謡の歌声のよさに気付き味わって聴いている。</p> <p>【鑑－①鑑賞】(発言内容・行動観察・ワークシート)</p>

⑨本時（全4時間中の第1時間目）

(1) 本時の目標

○「八木節」の歌い方や旋律の特徴を感じ取る。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・ 学習活動	・ 指導上の留意点	具体的評価規準 (評価方法)
導入 展開	<p>○「八木節」を聴いて、歌声の特徴や旋律の動きを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さくらさくら」を聴いたり歌ったりして、どのような情景が想像できたか、どのような気分になったか、なぜそのように感じたのかななどを全体で意見を交流する。 ・「八木節」を聴き、「さくらさくら」と比較しながら、歌声がどのような感じに聴こえたか、どのような歌い方をしているのか想像し、ペア→全体で意見を交流する。 ・「八木節」の旋律の動きに着目し、旋律がどのように動いているかを感じ取りながら聴く。 ・聴き取った旋律を手の動きに合わせて歌ってみる。 ・「こぶし」「ゆり」などを一切入れない「八木節」と比較聴取し、その違いから、どのような旋律の特徴があったか、気付いたことについて意見を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が何について聴き取り感じ取り、考えればよいのか分かりやすい発問を工夫する。 ・児童が互いの意見を伝え合いやすいように、初めはペアで活動してから全体に広げるようにする。 ・手の動きなどを使って、旋律の動きを感じ取るように言葉かけをする。 ・旋律の動きに合わせて手を動かし、どのように動かしていたか、などのことから気付いたことを伝えられるように言葉かけをする 	<p>民謡のもつ独特な発声やふし回しなどのよさや面白さに興味・関心をもち、鑑賞の学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【関－①鑑賞】(発言内容・行動観察)</p>

<p>まとめ</p>	<p>○民謡の発声や歌い方などを試して、それらのもつよさや面白さを実感する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭声的な発声と民謡の発声（お腹から声を出す、「こぶし」「ゆり」などを入れる）で「八木節」を歌ったり聴き合ったりする。全体 → グループ（5～6人）で行う。 ・友達の歌を聴き、旋律の特徴や歌い方について気付いたことや、意見を交流する。 ・より民謡らしく表現できるように、CDを聴きながら民謡の発声と「こぶし」「ゆり」などの歌い方を試す。 ・発声を変えたり「こぶし」などを入れたりしたことによって身体で感じたことや、歌っていて気持ちよかったところなどについて意見を交流する。 ・「八木節」の出だし部分を使って、より「民謡らしく」なるように全体で試したり聴き合ったりする。 ・「八木節」を聴きながら、板書を確かめたり、活動を思い出し、今日の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で歌うことへの不安を取り除くために、初めは全体で試し、更に何回も試すことができるようにグループでの活動を取り入れる。 ・試すときには、自分の身体やのどの使い方を意識するように言葉掛けをする。 	
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

<p>児童の様子と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2種類の比較聴取を取り入れたことで、民謡の発声や独特なふし回しのよさや面白さを感じ取ることができていた。 ・児童の思考の流れに沿ったスモールステップでの発問を工夫したことで、発言が増えた。 ・発表する時に聴いてほしいポイントを説明させたことで、聴く側だけでなく発表する側の意識が高まり、「ここを伝えたい」という表情が見られた。 ・民謡のふしの特徴、発声、ふし回しなどの要素に着目して「より民謡らしくなるように工夫する」という表現の学習を経てからの鑑賞活動を設定したため、自分たちの体験とも比較しながら味わわせることができた。 ・聴き取り感じ取る場において、児童が民謡の歌い方やふしの特徴の面白さを実感できるための時間を十分にとっていなかったこと、聴き取ったことと感じ取ったことを結び付ける際の言葉や伝え方が、児童が十分に感じ取るには不十分であったことが、第2次で「思いや意図をもち、深める」ことが出来なかった原因であった。 ・改善策として、児童が実感を伴って理解できる体験的な学習、それを導く発問、児童が気付いたり感じ取ったりしていることを結び付け言葉で適切に表す指導などを工夫する必要がある。

3 実践事例

(2) 「思いや意図をもち、深める」学習における「場の設定」と「働き掛け」の実践例

① 題材名 問いと答えの面白さを感じ取ろう (第4学年・6時間扱い)

② 題材の目標

- ・問いと答えの仕組みに興味・関心をもち、その特徴を感じ取りながら、仕組みを生かして思いや意図をもって音楽をつくる。
- ・音色と問いと答えの仕組みの関わり合いが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽曲全体を味わって聴く。

③ 学習指導要領との関連

【A表現】(1)音楽づくりイ「音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること」

【B鑑賞】(1)鑑賞イ「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと」

(1)鑑賞ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表わすなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと」

〔共通事項〕 ア(ア)音色 (イ)問いと答え

④ 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①問いと答えを生かし、短いリズムをまとまりのある音楽に構成することに興味・関心をもち、思いや意図をもって音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。 ②音色と問いと答えが生み出すよさや面白さに着目して聴く学習に進んで取り組んでいる。	①問いと答えを聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取っている。 ②問いと答えを生かし、リズムの組み合わせを試行錯誤して、どのように音楽を作るかについて自分の考えや願い、意図をもっている。	①問いと答えを生かし、短いリズムを組み合わせまとまりのある音楽に構成している。	①問いと答えを聴き取り、それと音色のかかわり合いが生み出すよさや面白さを言葉で表したり、楽曲の構造に気を付けて聴いたりしている。

⑤ 指導観

ア 題材観

本題材では問いと答えのよさや面白さを感じ取り、それらを生かしてまとまりのある音楽をつくることを指導する。さらに、音楽づくりでの学習を生かして、問いと答えのある楽曲の構造に気を付けながら、問いと答えが生み出すよさや面白さを味わって聴くこととも関連付けて指導する。

イ 教材観

(ア)問いと答えの特徴を感じ取る参考教材

「やまびこごっこ」(おうち やすゆき 作詞/若月明人 作曲)

「バイオリン協奏曲・四季より『秋』第1楽章」(ビバルディ作曲)

「ホルン協奏曲第1番 ニ長調 第1楽章」(モーツァルト作曲)

「幸せなら手をたたこう」(きむらりひと 作詞/スペイン民謡)

「タイプライター」(アンダソン作曲)

(イ) 音楽づくりの進め方

4種類のリズムカードを使い、音楽を作る。リズムカードの他に「模倣カード」「応答カード」があり、問いと答えを生かして作ることができるようにした。合いの手は、リズムカードの四分休符のところに入れるようにし、その際はワークシートに直接書き込む。「始め」「中」「終わり」の順番に作っていき、発表し合いながら、互いにとのような音楽を作っているか共有し、確認できる時間を確保するようにする。

(ウ) 鑑賞教材

「ホルン協奏曲第1番 ニ長調 第2楽章」(モーツァルト作曲)

⑥ 本題材における思考力・判断力・表現力を発揮させる「場の設定」と「働き掛け」

学習場面	○場の設定	○場の設定を実現するための「働き掛け」
聴き取る・感じ取る	○問いと答えの特徴に気付く。	○歌う活動、手拍子を打つ活動、鑑賞曲を聴く活動を組合せ活動をさせる。
	○問いと答えの働きを確かめ、よさや面白さを実感する。	○3種類の問いと答えのそれぞれの特徴と、リズム遊びをしてみても感じ取ったよさや面白さを整理して板書する。
	○楽器の音色と問いと答えを聴き取り、それらのかかわり合いが生み出すよさや面白さを感じ取る。	○指を動かしながら聴かせ、ホルンとオーケストラが問いと答えを展開していることに着目させる。また、それを視覚化したワークシートを用意する。
思いや意図をもち、深める	○問いと答えにこだわり、試行錯誤して音楽を作る。	○問いと答えの働きが生み出すよさや面白さを掲示したり、ワークシートを確認させたりして想起させる。 ○題材の目標を達成するために必要なことを児童に考えさせ、学習に見通しをもたせる。 ○カードを並べるだけにならないよう、実際に演奏して試すよう指示し、児童が気付いた技能的な問題を全体に投げかける。 ○拍の流れを班で一定にするために体を動かしながら演奏させたり、楽器の基本的な奏法を指導したりする。
思いや意図を実現する	○問いと答えのよさや面白さを十分に味わえるような音楽を作ることができたか、確かめる。	○どのような工夫(要素の働かせ方)をしたことで、どのような効果があったのかを、聴き手から聞いたり自分たちで振り返ったりして書くよう指示する。
楽曲の特徴や演奏のよさを理解する	○感じ取ったことと、音色と問いと答えが生み出す楽曲の構造を関連付ける。	○楽曲全体の中でホルンとオーケストラがどのように問いと答えを展開しているのかをワークシートで確認させ、そのことと曲想の変化との関連に着目させる。
音楽を味わって聴く	○感じ取った楽曲のよさや面白さを伝え合う。	○「問いと答え」などの要素の言葉を使って根拠を明らかにして、自分なりに感じたよさや面白さを説明させる。

⑦ 「思いや意図をもち、深める」学習場面における具体的な働き掛け

(1) 必要な技能に気付かせる働きかけ

児童は「ここで模倣を使おう。」「合いの手を入れると楽しくなる。」と、問いと答えにこだわり、要素の働きを工夫して音楽づくりを進めていた。しかし、拍の流れに乗れずに合わないなど、うまく演奏できていない班があった。そこで一度活動を止め、「止まらずに演奏するにはどうしたらいいかな」と全体で原因を考えさせた。児童はこれまでの経験から「リズム」「拍の流れ」に問題があることに気づき、「拍の流れに乗って体を動かしながら演奏すればいい。」「リズムをみんなで言いながら演奏すればうまくいくと思う。」と改善策を出すことができた。

		◆問いと答えを聴き取り、それと音色のかかわり合いが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて全体を味わって聴く。	
第 2 次	5	聴き取る・感じ取る	○音色と問いと答えを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取る。 ・「ホルン協奏曲第1番第2楽章」を楽器の音に着目して聴く。 ・音色の変化に合わせて指を動かし、冒頭部の問いと答えを聴き取る。 ・気付いたことや感じたことを発表し合う。 ・音色の変化に合わせて指を動かし、中間部、後半部の問いと答えを聴き取る。 ・曲全体を聴き、気付いたことや感じ取ったことを交流する。
	6	聴く 楽曲の構造を理解して 理解する 楽曲の特徴や演奏のよさを	○問いと答えと音色のかかわり合いが生み出すよさや面白さを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて全体を味わって聴く。 ・前時のワークシートを見て、楽曲中の問いと答えを確認する。 ・楽曲全体を聴き、曲想が変化するところで挙手する。 ・曲想が変化した部分の音楽的特徴について、班で意見を交流する。 ・楽曲全体を聴き、感じ取ったよさや面白さ、一番気に入ったところなどをワークシートに記入する。 ・自分が感じ取ったよさや面白さについて説明し合う。 ・再度楽曲全体を聴き、紹介文を書く。
		音色と問いと答えが生み出すよさや面白さに着目して聴く学習に進んで取り組んでいる。 【関一①鑑賞】 (発言、ワークシート)	
		問いと答えを聴き取り、それと音色のかかわり合いが生み出すよさや面白さを言葉で表したり、楽曲の構造に気を付けて聴いたりしている。 【鑑一①鑑賞】 (発言、活動の様子、ワークシート)	

⑨ 本時（全6時間中3時間目）

・目標

問いと答えの特徴を生かし、まとまりのある音楽をつくる。

・展開

	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点	具体の評価規準 (評価方法)
導 入	・問いと答えの三つの特徴と、そのよさや面白さを確認する。 ・本時の目標を知る。	・前時のワークシートを確認させる。 ・問いと答えの三つの特徴と 感じ取ったことの表を掲示し 振り返る。 ・題材名を確認させ、問いと 答えの面白さをもっと感じ 取るためにどんな学習がで きるか考えたり学習の見通 しをもたせたりする。	
	問いと答えの特徴や面白さを生かして、グループの音楽を作ろう。		

(3) 「思いや意図を実現する」学習における「場の設定」と「働き掛け」の実践例
(第2学年)

① 題材名 おまつりの音楽をつくろう (3時間扱い)

② 題材の目標

様々なリズムの特徴に気付き、組み合わせを工夫しながら思いをもって簡単な音楽を作る。

③ 学習指導要領との関連

【A表現】(3)音楽づくりア「声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。」
イ「音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。」

〔共通事項〕 ア (ア)リズム (イ)反復

④ 題材の評価規準

ア 音楽への 関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①リズムの特徴や「おまつりの音楽」に興味関心をもち、音遊びに進んで取り組もうとしている。	①リズムや反復の特徴を聴き取り、それらのよさや面白さを感じ取りながら、リズムの組み合わせを試し、自分の考えや願いをもって簡単な音楽を作る工夫をしている。	①リズムの特徴や反復を生かして簡単な音楽を作っている。	

⑤ 指導観

ア 題材観

本題材では今まで学習したリズムに対する感覚を生かして、おまつりの音楽を作る。今回は、前回までの題材で行ったリズムや拍子の学習事項から一歩前進させ、リズムの特徴を知覚・感受してリズムの違いに気付かせ、児童が自らこうしたいという思いをもって取り組ませる学習とする。互いに学び合い試行錯誤を繰り返す中で、友達の良さを認め合い、共有しながらリズムのよさや面白さを生かした音楽作りをさせたい。〔共通事項〕は、(1)ア(ア)リズム(イ)反復に重点を置き、反復を用いリズムのもつよさや面白さに気付かせ、児童の思いや意図の実現に向け、働きかけ方について組み合わせを工夫しながら音遊びをさせていく。

イ 教材観

(ア)「リズムカード」を使った音楽作り

カードの組み合わせを考えることによって、自分のリズムを楽しみながら作ることができる。友達と互いにリレーするなど、様々な発展ができる教材である。それぞれのリズムを ♩=ドン ♪=ド ♫=カカやドコ と決め、リズムを言葉(口唱歌)で言い表すことができ、おまつりの雰囲気味わうことができる。今回はあらかじめルールを決めておくことで、活動を分かりやすく進行していきたいと考える。

⑥ 本題材における思考力・判断力・表現力を発揮させる場の設定と働き掛け

学習場面	○場の設定	○場の設定を実現するための「働き掛け」
聴き取る・ 感じ取る	○反復の特徴を聴き取り、それが生み出すよさや面白さを感じ取る。	○基準となるリズムをそれ以外のリズムと比較聴取させながら互いの意見を価値付け、リズムの違いに気付かせる。 ○教師による和太鼓の範奏を聴かせ、リズムの特徴やおまつりの雰囲気を感じ取らせる。
思いや意図を もち、深める	○リズムの働きを実際に確かめ、6種類のリズムを組み合わせ、試行錯誤しながら反復を使って音楽作りをする。	○第1時で聴き取り感じ取ったリズムの特徴を、掲示したりワークシートで確認させたりしながら想起させる。 ○リズムカードを使って試行錯誤しながら、自分たちのリズムが分かるようにする。カードを並べるだけにならないよう、実際に演奏して試すよう指示し、児童が気付いた技能的な問題を全体に投げ掛ける。 ○ワークシートの記録や掲示を活用し、互いの意見を共有できるようにする。
思いや意図を 実現する	○ワークシートに思いを記入し、全体で発表したり自分たちで振り返ったりする活動を通して、音楽づくりの楽しさを実感する。	○おまつりのリズムにおける組み合わせを工夫させ、おまつりに対するイメージや思いを言葉で表現させる。また、友達同士で意見を交流し、学び合う中で新たな発見へと導いていく。 ○互いに発表し、よさを認め合う中で、リズムや反復を理解し、思いや意図を深めることができているか確認し、児童の自己肯定感を高めさせる。

⑦ 思いや意図を音楽表現で実現できたかどうか確かめさせる場の働き掛けの工夫

(1) ワークシート・掲示・発問の工夫

リズムカードを組み合わせる際に必要となる枠組みや、おまつりのイメージを言葉で表現させるヒントカード、リズムの特徴から感じ取ったことなどを板書や掲示した。それらを手掛かりとしながら思いや意図をワークシートに記述させた。演奏したり振り返ったりする場面で、自分の思いや意図が書かれたワークシートや掲示を手掛かりに発表し、互いの演奏のよさを伝え合い認め合えるようにした。そして、児童がリズムの働きが生み出すよさや面白さ、音楽作りの楽しさを実感できるよう働き掛けた。

【発表場面】

①どのようなおまつりの音楽にしたいと思いましたか。 ・「にぎやかでたのしいおまつり」にしたいと思いました。 ・「はずんでうきうきするようなおまつり」をイメージしました（言葉のヒントカードに、踊るような、力強い、元気な等を示した。）。	②そのためにどのようにリズムを工夫しましたか。 ・細かいリズムをくりかえして使うと、「にぎやかなおまつり」の雰囲気がでてきました（→共通事項：反復）。 ・ウドドンというリズムは生き生きとはずむようなリズムだったので、3回くりかえしてつくってみました。友達と一緒に元気よく手拍子を打ちました。（→共通事項：反復）
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【発表後の振り返り】

③友達の意見やアドバイスを聞いて、感じたことありますか。 ・作ったリズムを「元気なおまつりの雰囲気がでているね」とほめてもらってうれしかった。今度は別のリズムも作ってみたいと思いました。	④友達の演奏を聴いて変えたことがありますか。 ・他のグループのリズムの組合せ方や打ち方がよかったので、自分たちがリズムを打つ時にもいいところをまねして演奏しました。
--------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------

⑧ 題材の指導計画（全3時間扱い）

次	時	◆ねらい	○学習内容	・学習活動	■ 具体の評価規準 (評価方法)
第1次		◆ リズムのよさや面白さを感じ取る。			
	1	聴き取る・感じ取る 思いや意図をもち、深める	○リズムのよさや面白さを感じ取りながら音遊びをする。 ・教師の和太鼓による範奏を聴き、おまつりの音楽のイメージをつかむ。 ・基準となるリズムの反復とそれ以外の一つ一つのリズムの反復を比較聴取し、それぞれのリズムの特徴をつかむ。 ・リズムカードのリズムを言葉で表現したり手拍子で打ったりする。 ・6枚のリズムカードを使っていろいろなリズムの組合せを工夫する。 ・二人一組になり、互いのリズムを紹介して、作った音を試す。		リズム、反復を聴き取り、よさや面白さを感じ取り、「おまつりの音楽」に興味関心をもって音遊びに進んで取り組もうとしている。 【関-①】 (行動観察、発言内容、ワークシート)
	2	聴き取る・感じ取る 思いや意図をもち、深める	○リズムの面白さやよさを生かし、どのようにおまつりの音楽を作るか思いや意図をもつ。 ・前時に自分で組み合わせたリズムを試す。 ・全体で、ルールを理解する。 ・おまつりの音楽を作る時のルールを示す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ① どのようなかんじの「おまつり」にしますか。 () にことばをかんがえましょう。 ② ①のかんじに合うように、4枚のカードのくみ合わせを工夫しましょう。 ③ 4枚目のカードは、「ドン(ウン)」とします。 </div> ・二人一組で、互いのリズムを聴き合う。 ・4～5人のグループに分かれて、リズムを組合せを試す。 ・グループ活動の途中経過を発表する。 ・グループごとに、どのような雰囲気をもつおまつりの音楽を作るかをイメージしながら互いに意見を出し合い、演奏を工夫する。		リズムや反復の特徴を聴き取り、それらのよさや面白さを感じ取りながら、リズムの組合せを試し、自分の考えや願いをもって簡単な音楽を作る工夫をしている。 【創-①音楽づくり】 (発言内容、演奏聴取、ワークシート)
3	聴き取る・感じ取る 思いや意図をもち、深める 思いや意図を実現する	○グループでリズムの特徴や反復の仕組みを生かして、おまつりの音楽を作る。 ・グループごとに、リズムの特徴を生かして「活気のあるおまつり」や「どっしりとしたおまつり」等タイトルを考え、おまつりのイメージを言語化し、リズムの組合せを工夫する。 ・グループごとに工夫して作った「おまつりの音楽」を発表し、リズムのよさや面白さを聴き合う。		リズムの特徴や反復を生かして簡単な音楽を作っている。【技-①音楽づくり】(行動観察、発言内容、ワークシート)	

⑨ 本時（全3時間中の第3時間目）

(1) 本時の目標

グループでリズムの特徴や反復の仕組みを生かして、おまつりの音楽を作る。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点	具体的評価規準 (評価方法)
導入	○グループでリズムの特徴や反復の仕組みを生かして、おまつりの音楽を作る。		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム打ちながらこれまでの学習で感じ取ったリズムの特徴を振り返る。 ・「活気のあるおまつり」や「どっしりとしたおまつり」等タイトルを考え、おまつりのイメージにあった、リズムの組み合わせを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムカードを組み合わせる枠組み、おまつりのイメージと言葉で表すヒントカード、リズムの特徴から感じ取ったことなどを掲示する。 ・リズムの特徴を生かし、言葉と手拍子で表現させるようにする。 	リズムの特徴や反復を生かして簡単な音楽を作っている。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに工夫して作った「おまつりの音楽」を発表し、リズムのよさや面白さを聴き合う。 ・ワークシートに発表した感想や友達の演奏や意見を聞いて感じたことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや掲示を手掛かりに、どのような工夫をしたか発表してから演奏させる。 ・発表の際には、良かった点を伝え合い、互いの自信につながるよう配慮する。 	【技－①音楽づくり】(演奏聴取)

⑩ 児童の様子と今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・リズムの組み合わせや反復を用いて音楽作りをする活動に親しみを持ち、自らリズムカードを使って試行錯誤を繰り返しながら、音遊びの楽しさに気付くことができた。 ・自分たちで考えたリズムを発表することができたことに対する達成感や、リズムの楽しさを友達と共に学び合い共有する活動を通じて、次への学習意欲につなげていくことができた。 ・児童の実態に応じて肯定的な即時評価を行うことで、音楽づくりしたことによる自己肯定感を高めることにつながった。 ・ワークシートによって、音楽作りにおけるイメージを言葉で表現させることでスムーズに活動に取り組む姿が見られた。 ・音楽作りにおける思いは、自らのイメージをもつことに加えて、音楽を形づくっている要素へつながるアプローチを検討すること。何を試行錯誤させるのか明確にもたせる必要があった。 ・リズムの聴き取り感じ取りの他に、音楽の仕組みである反復についても、その良さや働きについて感じ取る場面の設定が課題であった。

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

五つの学習場面において、児童の思考力・判断力・表現力を発揮させる「場の設定」と「働きかけ」の工夫をすることで、自ら聴き取り感じ取ったことを基に、思いや意図を実現しようとしたり、主体的に音楽を聴き深める児童の姿を捉えようとした。

(1) 「聴き取る・感じ取る」学習場面での「場の設定」と「働きかけ」

要素の働きが分かる楽曲や演奏を選択し、比較して聴かせる、部分を取り上げて聴かせる、などの聴かせ方を工夫することで児童が要素の働きを聴き取り・感じ取る様子が見られた。また、歌ったり、リズムを叩いたりするなど様々な活動や、児童が聴き取ったこと、感じ取ったことを思考・判断しやすいワークシートや板書等で整理することも有効であった。

(2) 「思いや意図をもち、深める」学習場面での「場の設定」と「働きかけ」

聴き取り感じ取ったことを生かし、実際にその要素の働きを試行錯誤して「こうすれば自分の思う音楽が演奏できる」と実感することが、主体的な音楽活動につながる。これには、聴き取り感じ取ったことを振り返ったり、友達と考えを交流し考えを広げたりする学習形態の工夫が必要である。また思いや意図の高まりから、技能の必要性を児童が実感した際、適切な技能の指導により、思いや意図は更に深まる様子が見られた。

(3) 「思いや意図を実現する」学習場面での「場の設定」と「働きかけ」

要素の働きに着目しながら、演奏したり、友達の演奏を聴くことで、要素の働きよさや面白さに気づき、思いや意図の実現を感じている様子が見られた。

(4) 「楽曲の構造を理解する」学習の「場の設定」と「働きかけ」

聴き取る・感じ取る過程でつかんだ音楽を特徴付けている要素や、音楽の仕組みから生まれる「楽曲の構造」とその曲のもつ「曲想」との関わりについて、児童が思考・判断するように発問やまとめ方を工夫することで、楽曲の特徴や演奏のよさを今までよりも理解している様子が見られた。

(5) 「楽曲の特徴や演奏のよさを理解する」学習場面での「場の設定」と「働きかけ」

児童一人一人が、曲想と楽曲の構造の関わりから楽曲のよさや面白さを感じ取った上で、根拠を明らかにしながら、自分の考えを表現できる働きかけが必要であると分かった。互いの考えを交流したり、紹介文を書いたり、自分なりに音楽を価値付けていく活動が必要である。

2 今後の課題

- ・音楽を形づくる要素を聴き取りよさや面白さを児童が実感を伴って深く感じ取る具体的な指導として、体験的な活動や発問など、より具体的な働きかけの工夫に加え、今後更に、児童が気付いたり感じ取ったりしていることを音楽的な特徴と結び付け、楽曲の特徴を言葉で適切に表す指導の工夫が求められる。
- ・各領域や題材でどのような技能の指導が必要かさらに明確にし、児童に思いや意図をもたせ確実に身に付けた技能を基に、よりよい表現ができるよう授業改善を目指す。

平成27年度 教育研究員名簿

小 学 校 ・ 音 楽

地 区	学校名	職名	氏名
港区	筭 小 学 校	主任教諭	◎柴 田 裕 子
文京区	駒 本 小 学 校	主任教諭	木 村 順 子
大田区	嶺 町 小 学 校	教 諭	居 田 雄 一
世田谷区	深 沢 小 学 校	主任教諭	○藤 田 基
三鷹市	北 野 小 学 校	主幹教諭	荻 野 仁

◎世話人 ○副世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部 教育開発課
統括指導主事 執行 純子
東京都教職員研修センター研修部 専門教育向上課
課長代理 高久 道子

平成27年度
教育研究員研究報告書

小学校・音楽

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成27年度第197号〕

平成28年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 正和商事株式会社